

寄稿

「敗戦後70年」に思う ①

本間 勇（上平形・88歳）

今年は戦後70年ということで、憲法や70年談話など盛んに議論されております。

これらの事について、いろいろの資料を参考にさせてもらいながら私の考えを書かせていただきます。

戦争の悲惨さをより強く

私は当時、ソ連軍と「満州」（現中国東北部）での戦いに敗れ、武器・弾薬を取り上げられ、不名誉な捕虜となりこ

のしない仕事を受けた。

あの悔しさは70年経った今も鮮明に脳裏に焼きついております。

ですから「戦後70年」というような抽象的表現ではなく、「敗戦後70年」と言いたいのです。

8月15日はイベント的な「終戦の日」ではなく、「敗戦の日」としたほうが戦争の悲惨さをより強く感じられると思うからです。

シベリアで抑留死された戦友は、今もまだ故国日本に帰っており



今年で21年目となるアジア学院（栃木県那須塩原市槻沢）留学生の庄内研修が18日から29日までおこなわれます。マレーシア、ベトナム、ジンバブエ、インド、リベリア、ネパール、タンザニア、ラオス、ケニア、ガーナ、ミャンマー等から15人。有機農業を中心に研修します。



本間 勇さん

ません。

軍国主義東条政府の悪政が平成の時代にもなお影響しているのです。

このことを安倍首相もすっかり認識する必要があると。

憲法九条について

九条という戦争放棄の条文というものは

分かります。

しかし条文そのものを読むことは、あまりありませんので書かせてもらいます。

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」

前項の目的を達するため、陸海空軍その他戦力は、これを保持しない。国の交戦権は認めない。

即ち武力による戦争は永久に放棄し、陸海空などの戦力は持たないと明確に表現されております。

それなのに安倍首相は、勝手に拡大解釈し、

民報藤島1000号 記念の会ご案内

きろく 8月29日(土)午後2時～4時半予定
ところ 藤島駅前町内会館
かいひ 2,000円

(お酒が出ますのでお車はご遠慮ください)
民報藤島1000号記念祝賀会実行委員長 青山崇
連絡先：石川 (64-2258) 成田 (64-4765)

飯鉢博さん（85歳・八色木）東北陸上競技大会に5年連続出場で表彰

第32回東北マスターズ陸上競技選手権大会が7月26日、福島県郡



山市で開催され、飯鉢博さん（昭和5年生まれ・85歳・八色木）が出場し、東北大会に連続5回にわたり出場されたことから表彰されました。

この表彰は山形県から1人のみでした。飯鉢さんはM85クラス（60歳以上）で3位（14秒29）、100歳以上で3位（22秒48）の成績をおさめました。

飯鉢さんは6年前に前立腺がんの宣告を受け、抗がん治療などを受けながら練習を続けてきました。

飯鉢さんは80歳の時には第31回全日本マスターズ陸上競技選手権大会（東京）にも出場し、今回も闘病と7月の暑さ、85歳という高齢を乗り越えて目標を達成しました。

憲法九条は「アベ政治を許さない」そして私も 沖縄の友人が語った戦争の悲劇（新町T・S）

いくら交通が便利になり飛行機で数時間の時代になったからといっても、簡単には行けない沖縄の地に私の学生時代の友達だったAさんは住んでいる。

今では一年に一度の年賀状で、お互い生きている事を知らせあうだけの関係になってしまった。

ある年の夏休みに、Aさんに自分の帰省と合わせて沖縄と一緒に来ないかと誘われた。いくら船便で行くとはいってもお金はかかるし、沖縄に行くにはその当時まだパスポートが必要であった。

Aさんに見せられるまでパスポートなんて見たことも無かったし、何処に行けばもらえるかも知らなかった。面倒な事もあって行く事を諦めたような気がする。

Aさんは卒業後沖縄にある新聞社で働いておりましたが、その新聞社とは最近安倍晋三お友達議員グループから「潰さなければならぬ新聞社」に指名さ

れた2社の内のひとつ、アベ晋三氏が政権に就いてからまるで戦前の暗黒時代に国民を連れて行っているようで恐ろしいし、一部の議員も自分達が戦前の大本営グループの一員にでもなったとでも錯覚しているのではないかと思えてくる。

Aさんは本土の人に遠慮したのかあまり戦争の事は話しませんでしたが、時々思い出したように沖縄戦で生き残った家族から聞いた惨劇を語ってくれる事もありました。

戦中、Aさんの家は沖縄戦で米軍が上陸した地点の近くにあったらしく、逃げ場を失った家族は南部系満の方に逃げたということでした。しかしそこは運悪く沖縄戦で最後の激戦地となり「姫ゆり学徒隊」が殉職したあたりの壕の中に隠れてい

る時、終戦となって母親は助かったということでした。

父親は軍隊に招集され残されたのは老人と女・子供だけ。腐敗した死体を踏んで足が死体にめり込んで、生きるためには何も考えられなかったと、生き延びた人達は話していたそうです。

今国会で審議されている戦争法案では、核兵器まで運べるようになるんだって！

戦争は絶対嫌だと語っていたAさんの事を思うと、何という事を企んでいるのかとけつ飛ばしてやりたい。

それに対して私達から選ばれて代表になった偉い自公の議員さんが、異議も唱えないという姿を見ていると、国民の幸せより議員になるのが目的なのですか、と問いたい。

「美しい童謡は平和といっしょにある」

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

しんぶん赤旗 7月27



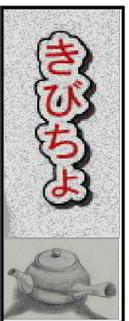
服部 公一【著】
『童謡はどこへ消えた—子どもたちの音楽手帖』
平凡社新書 価格 ¥885 (本体 ¥820)

日コラム「朝の風」。最近発行の服部公一著『童謡はどこへ消えた』について、「童謡よ、消えないで」として書いている。

服部氏は山形市出身で私と同じ高校の一つ後輩、彼とポン友であったという友人がいるということ、いささか近親感を持っていた。

彼は作曲家で大学教授も務め著書も多い。童謡ではレコード大賞童謡賞も受賞している。

出版社は、世の中に童謡が流れなくなつて久しい。「夕焼け小焼」「シャボン玉」「めだかの学校」「おもちゃのチャチャチャ」……かつて子供たちを魅了した童謡は、時代の流れに取り残されてしまったのか。長く作曲を手掛けてきた著者が綴る、詩情豊かな童謡へのオマージュ(賛辞)とアピールする。



義のためならば出陣
上杉謙信は私利私欲で戦はしなかつたとか。ただ、誰からの頼みでも義のためならば出陣したという。これは、自国が攻められてもいないのに出て行くから集団的自衛権だかのー。

▼今の国会、日本の国民を守るスキマのない法律を創るんだと言うけれど、いよいよ米国のニーズという言葉が出てきたヨ。堂々と米国の求めに応ずるのだと言いだめたのだ。

▼これで流れがハッキリした、というのは、自民党は結党以来平和憲法がジャマだったんだし米国も同じだった。だから米国の要求で吉田茂首相が警察予備隊を作ったのが今の自衛隊。憲法に、陸海空の戦力はこれを保持しないところにも係わらず、それを持って米豪など

「朝の風」氏は、息子にきくと、「シャボン玉」「夕焼け小焼」など知らないというのにシヨックを受けたという。この書を読んで、童謡は「日本文化史の生き証人」で、歌曲としても優れたものが多いことを知らされ、また「美しい童謡は平和といっしょにある」との指摘にも共感したという。名しか知らなかった私も、今の安倍政権の危険な情勢で改めて感銘を受けたのである。

と共同で人殺しの演習をしている。

▼九条があるからと金を出し出兵は断つたのだが、次は血を出せと言われていたのだ。血を出す法律を国会に出す前に米国に成立を約束したのがアノ演説。これが一連の流れ。

▼戦後70年、一人も殺さず一人も殺されずにきた、世界がウラヤム、世界にホコレル平和憲法をナシテ米国のためにツブスというのか。

▼国会の論戦を聞いていて、ハガイゲデ、ハガイゲデというのが国民の大部分です。だから日が経つほど反対が増えるんですヨ。

▼ナシテ、ソゴマデ、だろ。こんな自民党の政策を日本共産党は異常な米国追従主義と指摘し、国民の力で変えていこうと提案しているのです。こんなバカな法律、日本中の声を揃えて廃案にしなくては、ナーみんな。

(石川)